

マジメに、大阪。

対立から協調へ

はなだ 原田こうじ議員が 「大阪会議」を推進します。

■プロフィール 昭和55年9月5日生まれ。大教大附属池田小学校、大教大附属池田中学校、関西大倉高校、甲南大学法学部卒業。(株)NEXYZ勤務を経て、衆議院議員 原田けんじ 秘書。平成27年4月より大阪府議会議員(1期目)。商工労働委員会・広報委員会所属。



住民投票、否決の民意

5月17日に実施された、いわゆる「大阪都構想」を巡る大阪市の住民投票の結果は、反対70万5585票に対し、賛成69万4844票。僅差で都構想は否決されました。大阪市を5つの特別区に分割する橋下徹・大阪市長の都構想が否定され、大阪市は解体されることなく、存続が決まりました。

我が団は都構想には反対の立場で活動してきました。理由は、効果額が1億円程度しかなく、それ以上に費用がかかるという点でした。具体的には、市を5つの特別区に分割する場合、新たな庁舎建設やシステム改修費などで680億円程度かかるうえに、最初の5年間で1071億円の財政赤字が出るというものです。

ただ、都構想が否決されたからといって大阪が今のままでいいと考えているわけではありません。大阪市解体に反対する人と同様に、大阪を変えてほしい、改革してほしいという人が非常に多いということを重ね受け止めなければなりません。断固として改革は必要であると考えています。

大阪会議がスタート

5月定例会で、自民党が4年前から提案してきた大阪戦略調整会議(大阪会議)が賛成多数で可決されました。その後、大阪府、堺市両議会でも可決され、いよいよ大阪再生に向けた取り組みが進み始めました。

しかし、第1回目の会合で、会長の議事整理権や、規約に都構想の対案と明記するように主張する維新側と対立し紛糾。

第2回会合は、「協議のルールが決まっていない状態で開いても議論が進まない」(花谷充愉府議団幹事長)として、我が団などは欠席の選択をしました。8月末の臨時議会で、運営ルールに変更するために条例改正案を提案しました。維新以外の会派の賛成多数でいったんは可決されたものの、松井一郎・大阪府知事の審議のやり直し(再議)によって、廃案に追い込まれました。

大阪会議の会派構成

大阪府知事、大阪市長、堺市長の3名と、議員代表として府議会議員9名、大阪市議会議員9名、堺市議会議員9名で構成。議員は会派比率によって選出されます。また、必要に応じて、関係する市町村にも参画してもらいます。



大阪会議をやりある会議に

ようやく大阪会議の再開のめどがたった9月28日の府庁新別館で開かれた第3回大阪会議。またもや、橋下市長、松井知事が、事前に開かれた先の会合で、議事決定においては全会一致とする規程を認めていたにもかかわらず、前言を撤回し、最終的には議事整理権を会長に与えるという主張を繰り返しました。

事務局の事前調整では、本会議で議題提案まで進む予定でした。つまり首長、各会派が大阪再生のためのプランを府民、大阪市民の前に提示する舞台は整っていたのです。本会議で議題提案まで進む予定だったのです。

橋下市長らの一連の行動は、大阪会議を機能停止に陥らせるがためにとった行動であり、会議を円滑に前に進ませないための維新側からの「いちゃもん」といって、いいでしょう。

都構想の関連経費は約32億円にものぼり、巨額の税金を投じて実施された5月の住民投票は一体何だったのでしょうか。我が団は、大阪会議をやりある会議とし、大阪に再び輝きを取り戻します。



第3回会合にのぞむ花谷幹事長、栗原政調会長ら

大阪会議の経過

- 5月17日 大阪維新の会が提唱してきた「大阪都構想」が住民投票の反対多数で否決
- 6月 大阪府、大阪府、堺市の各議会で大阪会議の設置条例が可決、成立
- 7月24日 大阪会議の初会合。都構想の対案と規約に明記するか否かや議事進行で対立
- 9月24日 第3回会合開催に向け事前協議を開催。議事整理について、全会一致を前提とし、議案の選定作業の開始について合意
- 9月28日 第3回会合。議案の提案をめぐり、橋下市長ら維新と再び対立